

野菜・花きの営農情報


《6月中旬～7月中旬の技術対策》

令和元年 6月20日発行
第2号
空知農業改良普及センター本所
Tel : 0126-23-2900
Fax : 0126-22-2838

【全作物共通】

- ① 外気温や日照の変化に応じたハウスの開閉が必要です。曇天後のわずかな日照でもハウス内温度は、急上昇しますので注意が必要です。
- ② 除草剤は使用基準を遵守して下さい。また、隣接畑への飛散には十分な注意が必要です。
- ③ 病害虫の発生が懸念される場合、発生予察情報に留意し初期防除に努めましょう。
- ④ 農薬使用基準を守り、薬害や他作物への農薬飛散に注意して防除を実施しましょう。
- ⑤ ハウス栽培では気象変動や生育ステージに応じた温度管理、水管理を徹底しましょう。
- ⑥ ハウスやトンネル栽培で日差しの強い場合は、遮光資材などを利用し障害の発生を回避しましょう。

【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策												
メロン	<p><温度管理の目安></p> <ul style="list-style-type: none">・ 最高気温 30℃以下、地温 18℃以上を目標に管理しましょう。 <table border="1"><thead><tr><th>生育期節</th><th>最低気温</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>開花7日前～着果期</td><td>15℃程度</td><td>やや高めの温度管理で雌花を充実させます。</td></tr><tr><td>果実肥大期</td><td>15～18℃</td><td>最低気温をやや高め初期肥大を促します。</td></tr><tr><td>ネット形成期</td><td>15℃程度</td><td></td></tr></tbody></table>	生育期節	最低気温	備考	開花7日前～着果期	15℃程度	やや高めの温度管理で雌花を充実させます。	果実肥大期	15～18℃	最低気温をやや高め初期肥大を促します。	ネット形成期	15℃程度		<p>降雨が少なく、乾燥気味に推移しているため、ハダニの発生が見られます。こまめなほ場観察で早期発見に努めましょう。</p> <p>今後、曇雨天で経過した場合は、菌核病の発生が予想されます。換気を行いハウス内の湿度を高めないようにしましょう。</p>  <p>菌核病</p>
	生育期節	最低気温	備考											
開花7日前～着果期	15℃程度	やや高めの温度管理で雌花を充実させます。												
果実肥大期	15～18℃	最低気温をやや高め初期肥大を促します。												
ネット形成期	15℃程度													
ミニトマト	<p><温度管理の目安></p> <ul style="list-style-type: none">・ 夜温が 12℃以上を確保できるようであれば、夜間もハウス側窓を開放しましょう。 <p><かん水・追肥管理></p> <ul style="list-style-type: none">・ かん水はマルチ下の土壌水分を確認し、生育状況に応じて少量多かん水とします。・ 果実肥大が盛んな時期です。葉色や生長点をよく観察し、追肥を実施しましょう。追肥量の目安は、第3花房開花期以降、各段が開花する毎に窒素成分量 2kg/10a 程度ですが、数回に分けて施しましょう。追肥後の草勢をよく確認し、追肥量を決定しましょう。	<ul style="list-style-type: none">・ 灰色かび病が発生しやすい時期です。換気と防除につとめましょう。・ アザミウマ類が発生しやすい時期です。発生状況に応じて適期防除を行いましょう。												

<p>きゅうり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気温変化や生育状況に応じたかん水と追肥、ハウス内湿度の確保に努めましょう。 ・摘心や摘果は、株に対する負担を極力抑えるために、遅れないようにしましょう。また、生育量に合わせて側枝を伸ばすなどし、草勢の確保に努めましょう。 ・葉の寿命は展開後 30～40 日程度です。 1 株当たりの古葉の葉かきは 2 日おきに 1 枚程度にとどめましょう。 ・通路に敷きワラを施し、ハウス内の乾燥防止に努めましょう。 <div data-bbox="655 450 995 703" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="655 703 995 763" data-label="Caption"> <p>褐斑病</p> </div>	<p>降雨が少なく、乾燥気味に推移しているため、ハダニの発生が見られます。こまめなほ場観察で早期発見に努めましょう。</p> <p>今後、曇雨天で経過した場合は、菌核病・灰色かび病・べと病の発生が予想されます。換気を行いハウス内の湿度を高めないようにしましょう。</p> <p>また、高温・多湿で経過した場合、褐斑病が発生しやすくなりますので、発生状況に留意し適期に防除しましょう。</p>
<p>かぼちゃ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整枝後は、つるが畝間をふさぐ前に中耕し、除草に努めましょう。 ・中耕の際に追肥も同時に行うと省力化につながります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病を初期に防除することで、日焼け症の予防につながります。
<p>いちご</p>	<p><温度管理の目安></p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥大期～収穫期に入っています。高温管理にならないよう、遮光や循環扇も活用しましょう。 ・日中の温度管理は、20℃前後を目標にしましょう。 <p><かん水管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちごは乾燥・過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行いましょう。収穫期以降はかん水の回数を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花びらの落ちが悪いと、そこから灰色かび病の発生につながります。薬剤防除のほか、こまめな換気などの耕種的防除も行いましょう。 ・ハダニ類、シクラメンホコリダニ、アザミウマ類の発生に注意し、発生初期防除に努めましょう。

【野菜（葉茎菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> • ほ場に入る際は、葉を傷めないように気をつけましょう。 	<p>アザミウマ類やネギハモグリバエの初発を確認しています。ほ場をよく観察し、必要に応じて防除を実施しましょう。</p>
露地ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> • 1回目の培土時期は定植後 30～40 日頃を目安とし、植溝の土戻し程度としましょう。 • 培土の際は、根を傷めると葉先枯れ等の発生に繋がりますので、深く起こさないよう注意しましょう。培土前後には防除も実施しましょう。 • 追肥を行う場合は、1回あたりに窒素分量を 10a 当たり 2～3kg 施用しましょう。 	<p>また、白斑葉枯病などの病気の防除も実施しましょう。</p> <div data-bbox="1082 573 1378 813" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="999 824 1455 884">ネギハモグリバエの成虫食痕</p>
アスパラガス	<p>○ハウス栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> • 摘心は、擬葉の展開が終わり、茎が伸びきって硬化した頃に実施しましょう。摘心位置は草丈 150cm 程度を目安とします。側枝の整理は摘心後に実施して下さい。 • 夏芽の収穫が始まると多量のかん水が必要になります。天候を考慮し、土壌水分が不足しないようにかん水量・間隔を決めましょう。 <p>○露地栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> • 収穫期間は約 30 日間とし、立茎を開始しましょう。立茎に適した若茎を順次立茎し、地上茎を確保しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 立茎時に多雨になると、茎枯病が発生しやすくなります。発生がみられたほ場では、立茎時の防除を徹底しましょう。 • ツマグロアオカスミカメ、ジウシホシクビナガハムシ、アザミウマ類の発生状況に注意し、防除を実施しましょう。

【花 き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
<p>カーネーション (スプレータ イプ)</p>	<p>〈温度管理の目安〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 晴天日の日中は、ハウス内が高温となります。ハウスを開放し、30℃を超えないように管理してください。高温が予想される場合は、遮光しましょう。 <p>〈かん水管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 生育が旺盛となり、葉先枯れ（チップバーン）が発生しやすい時期です。少量多かん水を行い、発生を予防しましょう。 収穫時期近のかん水は、切り花の水揚げや日持ちを悪くするため、土壤水分を確認し過湿にならないようにしましょう。 <p>〈その他管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 抽台が始まったら、葉色を見て追肥を行いましょう。 不要なわき芽を整理することで、側枝の伸長と開花が促進されます。 生育に合わせてフラワーネットを上げ、誘引しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部ほ場でハダニ類、アザミウマ類の発生を確認しています。葉裏を良く観察し、発生初期防除に努めましょう。アザミウマ類の予察には、青色粘着板の設置も利用しましょう。 <div data-bbox="999 465 1361 907" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="999 907 1455 965" data-label="Caption"> <p>ハダニ類</p> </div>
<p>スターチス (シヌアータ)</p>	<p>〈温度管理の目安〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 30℃以上の高温が続くと生育が停滞します。 高温により萎れが生じると、抽台茎や花穂の曲がりにつながります。高温時は遮光資材や循環扇を活用しましょう。 <p>〈かん水管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> かん水量が多いと軟弱茎となるので、一番花の花穂が色づき始めたら、かん水は控えます。 一番花の採花が3割程度終了した頃から、二番花の抽台に向けかん水を開始し、追肥を行います。 <p>〈その他管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈20cm頃からフラワーネットを上げ、茎がはみ出さないように誘引しましょう。また、倒伏防止にサイドにロープを張りましょう。 抽台茎がフラワーネットに引っかかり、曲がりの原因となることがあります。定期的に点検、誘引しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 灰色かび病は、下葉に発生を確認しています。天候が曇雨天になり湿度が高まると上葉への拡大が心配されます。換気を十分に行い、予防防除を実施しましょう。 採花期まで定期的に殺菌剤を散布しましょう。 ハダニ類、アザミウマ類などの発生が増える時期です。ほ場をよく観察して、発生初期防除に努めましょう。 <div data-bbox="999 1514 1469 1854" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="999 1854 1455 1912" data-label="Caption"> <p>灰色かび病</p> </div>

★暑い日は、こまめな水分・塩分補給で熱中症を予防しましょう★